# 2019-20 12-1 月

# はしかけニューズレター

2019年度 第5号 通巻150号

2019年(令和元年)12月1日 発行

会員数 \*\*\*403人

グループ数 26グループ

(2019年12月1日現在)



編集・発行: 滋賀県立琵琶湖博物館 交流担当 (はしかけ担当職員:下松・八尋) 住所:〒525-0001 滋賀県草津市下物町 1091 電話: 077-568-4811 ファックス: 077-568-4850 電子メール: hashi-adm@biwahaku.jp 琵琶湖博物館ホームページ : https://www.biwahaku.jp

(注意) 平成30年11月よりHPアドレスが変更になっています。

#### ~ 目 次 ~

- 1. びわ博フェス 2019 の実施について
- 2. はしかけグループの活動報告と活動予定
- (1) うおの会 (2) 近江 巡礼の歴史勉強会 (3) 淡海スケッチの会
- (4) 近江はたおり探検隊 (5) 大津の岩石調査隊 (6) 温故写新
- (7) くらしをつづる会 (8) 古琵琶湖発掘調査隊 (9) 湖(こ)をつなぐ会 (10) ザ!ディスカバはしかけ
- (11) 里山の会 (12) 植物観察の会 (13) たんさいぼうの会 (14) 田んぼの生き物調査グループ
- (15) タンポポ調査はしかけ (16) ちっちゃなこどもの自然あそび(ちこあそ) (17) 琵琶湖の小さな生き物を観察する会
- (18) びわたん (19) ほねほねくらぶ (20) 緑のくすり箱 (21) 虫架け (22) 森人 (23) 琵琶湖梁山泊
- (24) サロン de 湖流 (25) 水と暮らし研究会 (26) 海浜植物守りたい
- 3. 生活実験工房からのお知らせ
- 4. その他の事項

## 1. びわ博フェス 2019 の実施について

去る10月19日、20日の土日に「びわ博フェス2019」を開催いたしました。はしかけグループの皆様には、ポスター作製やワークショップ開催にご協力いただき、誠にありがとうございました。「びわ博フェス」は、はしかけグループの活動をグループ同士、また館外の方々に広く知っていただき交流することを主な目的として、ポスター展示やワークショップなどを行う恒例の行事で、今年で9回目を数えます。おかげさまで、ほとんどのワークショップで概ね満員御礼でしたが、全体の来館者については、日曜日で4,000人ほどと昨年に比較して少ないものとなりました。この原因として、地域の催し物や運動会などと多く重なったことが考えられました。

うおの会さんなどの、恒例のものづくりのワークショップのほか、目新しいものとして、昨年リニューアルオープンしたおとなのディスカバリーのオープンラボでの実演会や、樹冠トレイルでのガイドツアーなどを開催していただきました。写真左は虫架けグループによる実演の様子、右は森人グループによる樹冠トレイルでのガイドツアーの様子です。皆様には、新しい施設を存分にご活用いただき、活動の幅を広げていただければと思います。 (下松 孝秀)



オープンラボでの実演の様子(虫架け)



樹冠トレイルでのガイドツアー(森人)

### 2. はしかけグループの活動報告と活動予定



(1) うおの会 【活動報告日の活動会員数(のべ) 25名 】

グループ代表アドレス: hashi-uonokai@biwahaku.jp

グループ担当職員:松田征也

#### 【活動報告】

#### ■ 10月19日(土) びわ博フェス 参加者: スタッフ11名、来場者80名(保護者除く)

びわ博フェス 2019、うおの会は例年通り「お魚キーホルダーを作ろう」と題し、プラ板づくりでの参加となりました。 今年は人手不足が心配されていましたが、毎年の積み重ねから素早い準備ができ、大きな混乱もなく開催することができ ました。

早々に整理券もなくなり、約80名の方が参加されました。トラブルもなく、思い思いのプラ板を作られて、満足して帰 られているようでした。片付け後に反省会をし、来年もより良いものにしたいなと思いました。 (報告:中島 財)

### ■ 10月20日(日)第146回定例調査 場所:姉川中上流周辺 参加者:14名

天候にも恵まれ、さわやかな秋の風が吹くなか、146回定例調査は始まりました。前日のびわ博フェスから連続参加の 方もおられました。集合は道の駅伊吹の里、ここは立ち寄る人が多いわりに駐車場が広くないので、今日の集合はちょっ と迷惑になっていたかもしれません。

調査は3班体制で実施しました。姉川本流は魚類保護のため対象から外し、上流域は険しい山を縫っての厳しい調査と なりましたが、中流域は水路も多く、たくさんの魚種をみることができました。自然豊かな姉川流域は、小さな水路であ っても多くの魚種を確認することができ、あらためて自然保護の大切さを感じさせる調査になりました。皆さん秋を満喫 し、満足のいく顔で帰っていかれました。 (報告:手良村知央)

#### 【活動予定】

- 11月17日(日)第147回調査 相模川、総門川、吾妻川等、大津市内河川
- 12月15日(日)第148回調査 守山市、草津市周辺河川、水路



# (2) 近江 巡礼の歴史勉強会 【活動報告日の活動会員数(のべ) 13名】

グループ代表アドレス: hashi-junrei-rekishi@biwahaku.jp

グループ担当職員:橋本道範、渡部圭一

#### 【活動報告】

#### ■ 9月18(水) 江州岩上講秋の大祭に参加 場所:甲賀市水口町 参加者:2名

岩上龍王山にある岩上不動尊の護摩供養に参加。護摩供養は神仏を供養し、除災招福を祈る儀式の事です。密教独特の護 摩は、密教系の寺院においておこなわれる修法で、護摩の火で、煩悩や一切の苦を焼き尽くします。岩上講が所属する吉野 の竹林院は飯道寺や善水寺との関係が深い寺院であったことが調査によりわかりました。修験道と山伏に関係する歴史あ る講を続けておられることに感動しました。





■ 10月19日(日) びわ博フェスにて近江巡礼の歴史勉強会のポスター展示 場所:琵琶湖博物館 参加者:3名 琵琶湖博物館のアトリウムではしかけグループとしてポスター展示を実施しました。 多くのご来館者の方々に活動を知っていただく良い機会になりました。





#### ■ 10月26日(土)もう一つの巡礼 場所:京都市 参加者:2名

法然上人二十五霊場は浄土宗の開祖法然上人ゆかりの寺院をめぐる巡礼です。札所寺院が25か所と番外の縁故本山、特 別霊場を合わせて31か所で構成されている。円光大師二十五霊場とも言われ宝暦年間(1751年-1763年)に成立したとさ れている。この二十五霊場は浄土宗の寺院を中心にした巡礼であるが、西国四国巡礼と同じように真言宗や天台宗の寺院も 含まれている。また、札所は中国四国地方から近畿地方に渡っている。

今回はこの霊場巡拝の中から京都大原第二十一番勝林院、第二十二番百万遍知恩寺、第二十四番金戒光明寺を巡拝、京都 にある浄土宗の中心的な聖地巡礼を総勢32名の参加で体験した。





念仏の教えについて論議された天台宗勝林寺の本尊と法然上人腰掛石



百万遍知恩寺での「大念珠繰り」



浄土宗最初の念仏道場「金戒光明寺」

■ 11 月 10 日 (日) 岩上地区文化祭で巡礼の歴史勉強会のパネル展示を実施 場所:甲賀市水口町 参加者:3名 はしかけグループ「近江 巡礼の歴史勉強会」として岩上地区の多くの方々に説明させていただき関心を持っていただいた。(参加者数:岩上地区文化祭 400 名)





#### ■ビワマスの聖地巡礼 場所:甲賀市水口町 参加者:3名

岩上地区文化祭野洲川上流における「海を忘れたサケ」ビワマスの遡上調査

写真は甲賀市新城の頭首工を遡上するビワマスです。琵琶湖からここまで約30kmの距離を、多くの堰を乗り越えてやってきました。3年前、60年ぶりの遡上が野洲川でも確認され話題になりましたが、今年は例年より多くのビワマスの遡上が見られました。







甲賀市土山町瀧樹神社にて撮影 (2019.10.29)

新城よりも上流はどこまで遡上しているのかを調査したところ土山町の瀧樹神社の堰でビワマスが確認できました。ここは琵琶湖から約40kmの地点です。魚道もあるためここから先にも遡上している可能性があります。





甲賀市土山町瀧樹神社にて撮影(2019.10.29)

今回の調査では、野洲川や杣川だけでなくその支流でも遡上が確認できました。今後も調査を継続して野洲川流域の現状を把握してみたい。

※ビワマスは産卵保護のため 10 月 1 日から 11 月 30 日まで採捕・所持・販売が禁止されています。違反した場合は滋賀県漁業調整規則により処罰対象となります。

#### 【活動予定】

- ・「甲賀准四国八十八ヵ所」に関連した調査活動として、一ヵ寺ごとの二次調査を行い、データ集積を行う。
- ・石碑の現存する53ヶ寺の拓本採集を進める。
- ・琵琶湖博物館でのパネル展示に向けた準備を進める。

(福野憲二)

\*この活動に興味のある方は、上記メールアドレスにてご連絡ください。



### (3) 淡海スケッチの会

## 【 活動報告日の活動会員数(のべ)5名】

グループ代表アドレス: hashi-sketch@biwahaku.jp

グループ担当職員:桝永一宏

#### 【活動報告】

■ 9月29日(日)場所:オープンラボ(琵琶湖博物館) 参加者:3名 びわ博フェスのためのポスター制作。

■ 10月27日(日)場所: 花緑公園(野洲市) 参加者: 2名 秋の公園内をスケッチする。

#### 【活動予定】

■ 11 月 24 日 (日) 10:30 現地ロープ・ウェー乗り場にて集合 八幡山 (近江八幡市) にてきのこ観察と周辺のスケッチ

■ 12月22日(日)10:30~

琵琶湖博物館の2階、飲食スペースにて2020年の活動についてミーティングを行います。 はじめての方も、どうぞお気軽にのぞいてみてください。

\*変更がある場合は、メールでお知らせします。

※初めて参加される方は080-5709-8634 (金山) までご連絡ください。

-プ代表アドレス: hashi-oumihataori@biwahaku.jp



### (4) 近江はたおり探検隊

【 活動報告日の活動会員数(のべ)19名 】

グループ担当職員:渡部圭一

【活動報告】

#### 織姫の会

■ 9月25日(水)参加者:2名

ニャンドゥティの試作。びわ博フェス本番でやるとおりに作っても らいました。結果、2時間以上かかることが判明。

■ 10月9日(水)参加者:3名

ニャンドゥティの準備と試作。受入れ人数は10人にしましたが、一応20人分の準備をしました。また、周囲の切込みに糸がひっかかるので、セロテープを貼ってカバーしました。

■ 10月19日(土)参加者:8名、体験者14名

体験の人数を10人にしていましたが、結局14人となりました。最初に完成したのは16時。2時間以上かかってしまいましたが、最終的には7人の方が完成して持って帰られました。

■ 11月6日(水)参加者:6名

高島市でスカリの実物を見学したので、同じ編み方で作ってみました。

#### 【活動予定】

■ 織姫の会

11月23日(土)、12月14日(土)わくたん「綿に触れてみよう」 (辻川 智代)



10月19日 びわ博フェス



## (5) 大津の岩石調査隊

【 活動報告日の活動会員数(のべ) 43名 】

グループ代表アドレス: hashi-ganseki@biwahaku.jp グループ担当職員:里口保文

#### 【活動報告】

#### ■ 9月21日(土)安曇川の河原の岩石観察と年縞博物館の見学 参加者:12名

#### ○概要

安曇川流域の葛川の橋から北方向を見て観察、年縞博物館の観察、水月湖の観察、古琵琶湖層群の観察予定だったが見られなかった、安曇川河原の岩石を観察して議論した。

#### ○詳細

年縞博物館へ行く途中に安曇川上流の葛川の橋から、V字谷と花折断層や町居崩れの観察をし、中野さんと里口さんから解説を聞いた。年縞博物館では、ボランティアさんから解説をしていただき、水月湖の7万年間の地層を観察した。水月湖湖畔で水月湖の周りの地形観察と、この場所に7万年の地層が保存されている理由について議論した。安曇川では、白土谷火山灰層の観察をする予定でしたが、雑草が繁っていたために、目的の場所にたどり着けませんでした(天候も悪かった)。安曇川の河原(両台橋付近)では、メランジュ、砂岩泥岩互層の石、閃緑岩、石英脈をふくむ岩石などの観察と、中野さんからの解説を聞いたり、みんなで話あったりしました。最終地点で、参加した隊員にアンケートをしました。

#### ■ 10月19日(土) 9:40~16:00 びわ博フェスへの参加 参加者:11名

#### ○背景と目的

当隊のメンバーに若手が増加し、岩石や地質図等に馴染みがない人が増えたこと、また、主体的に、人と交流しながら面白く岩石などの勉強をしたいとの機運が増加してきたことから、昨年と同様に、大人のディスカバリーの場所と標本を活用し、「びわ博フェス」に参加する

#### ○実施した内容

#### A. 岩石あてクイズと、石灰岩中のフズリナの化石などの顕微鏡観察

石灰岩、チャート、花崗岩、砂岩、泥岩など主な岩石を1つ目の箱に入れて、大人の方にはその石の名前を当てていただく。小学生以下のお子さんには好きな石をまず持っていただく。その次に、隣に置いておいた2つの箱(野洲川と高時川の河原の石)から同じ種類の石を探していただいた。触ったり、持ったり、色を見たりと観察する。

皆さん、楽しそうに探して、その石が何からできているのかを知って驚かれる姿も見られ、それが興味を深める原点の一つになれたら嬉しい、と思った。

#### B. 地質図のコーナー

自分たちが今、住んでいる、または住んでいた地域の地質や岩石がわかり、散歩の途中でいろんな石に出会えるのかという好奇心をくすぐる良い材料になったのではと思う。

#### C. 岩石をとおした交流

中学2年の若手から老人までのメンバーそれぞれが自主的に工夫して、訪れてくださった方たちとコミュニケーションをとることができたのは、とても良い刺激になった。

#### D. メンバー間の勉強と交流

地質図自体にあまり馴染みがなかったメンバーは地質図の見方がわかり、中野特別研究員から地質図にまつわるいろいろなお話を聞くことができたことも有効であった。

#### ○全体的な感想

人前での説明のために、皆さん、自習・相談・工夫し、巧みな説明と質問で、自信を獲得できたことはメンバーにとって大きな成果であると感じました。

○訪問者数 71名

#### ■ 10月19日(土) 16:00~ 今後1年間の活動予定の話し合い 参加者:11名

大人のディスカバリーで、びわ博フェスでの活動の後に、今後の活動予定について話し合いを行った。その結果、野外活動をメインに、冬は薄片作成を実施する予定で、以下のとおりの計画をたてた。

11月:三上山地質観察、12月:多賀町立博物館へ湖東火砕岩類の学習、1月:薄片作成1、2月:地学研究発表会に参加、3月:薄片作成2、4月:音羽山の地質観察、5月繖山の凝灰岩1、6月:繖山の凝灰岩2、7月:河内の風穴見学と化石調査、8月音羽山の沢での静養と地質調査、9月:田上山のペグマタイト調査、10月:びわ博フェスに参加

#### ■ 11 月 9 日 (土) 9:30~15:30 三上山地質調査・観察会 参加者:9 名 快晴

#### ○背景と目的

当隊のメンバーに若手が増加し、地質図等に馴染みがない人が増えたこと、また、滋賀県の南部になじみのない人も増加した。一方、ベテランの加入もあり、地質図の読み方を学ぶのに好的な条件が整いだした。今回は湖南の名峰・三上山で、地質図を見ながら、現場の変成した岩などの調査・観察を行うことにした。

#### ○調査の概要

御神神社に集合し、三上山を急登し、チャートと北尾根の花崗岩の観察をした。三上山のチャートは花崗岩と接触変成して白いチャートに変成したものであった。スレート質層状珪質粘土岩もみられる。上に登っていくにつれて、褶曲した層状チャートもよく観察できた。山頂裏の展望台からは、鈴鹿から伊吹山、湖北の山々が一望できた。滋賀の山は石灰岩、湖東流紋岩、花崗岩、チャートなどから成り立っていることが、観念的には分かった。

#### 【活動予定】

- 12月7日(土)多賀町立博物館へ湖東火砕岩類の学習
- 1月18日? 薄片作成1、の予定です。2月は地学研究発表会に参加する予定。



## (6) 温故写新

【 活動報告日の活動会員数(のべ) 一名 】

グループ代表アドレス: hashi-onkosyasin@biwahaku.jp

グループ担当職員:金尾滋史

【活動報告】 活動はありませんでした。

【活動予定】 未定です。



### (7) くらしをつづる会

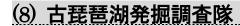
【 活動報告日の活動会員数(のべ) 一名】

グループ代表アドレス: hashi-kurashi@biwahaku.jp

グループ担当職員:渡部圭一

【活動報告】 活動はありませんでした。

【活動予定】 未定です。



【 活動報告日の活動会員数(のべ) 39



名】

グループ代表アドレス: hashi-hakkutsu@biwahaku.jp

グループ担当職員:山川千代美

#### 【活動報告】

■〔第5回〕多賀の発掘現場で採取された咽頭歯化石のクリーニング

日時: 2019 年 9 月 22 日(日) 13:00~16:00 場所: 琵琶湖博物館 実習室 1 参加者:10 名

活動内容:今回も多賀の発掘現場で採取された咽頭歯化石のクリーニングに取り組みました。各自のクリーニング技術が向上し、メンバー間の作業における連携も取れるようになり、多くの咽頭歯化石をクリーニングすることができました。





#### ■多賀の発掘現場の土から微小な化石を探す作業

①日時: 2019 年 9月18日(水) 場所: 琵琶湖博物館 実習室2 参加者: 4名 ②日時: 2019 年 9月28日(土) 場所: 琵琶湖博物館 実習室2 参加者: 4名 ③日時: 2019 年 10月10日(木) 場所: 琵琶湖博物館 実習室1 参加者: 3名 ④日時: 2019 年 10月15日(火) 場所: 琵琶湖博物館 実習室1 参加者: 3名 ⑤日時: 2019 年 10月22日(火) 場所: 琵琶湖博物館 実習室1 参加者: 3名

※活動時間はいずれも 13:00~16:00

活動内容: 多賀の発掘現場で採取した土を、丁寧に小割りしたり水洗したりして顕微鏡で観察し、微小な化石を探す作業をおこないました。





#### ■「びわ博フェス 2019」でのポスター展示

日時: 2019年10月19日(土)・20日(日) 場所: 琵琶湖博物館1F アトリウム

活動内容: 古琵琶湖発掘調査隊の今までの活動や今年度の活動についてのポスター計2枚を作成し、アトリウムに展示しました。

#### ■〔第6回〕多賀の発掘現場で採取された咽頭歯化石のクリーニング

日時: 2019 年 11 月 3 日(日) 13:00~16:00 場所:琵琶湖博物館 実習室 1 参加者:12 名

活動内容:前回までの活動であと少しだけ残っていた咽頭歯化石のクリーニングをおこないました。5月より古琵琶湖発掘 調査隊として継続的に多賀の発掘現場で採取された咽頭歯化石のクリーニングに取り組んできましたが、今回の活動で咽 頭歯化石のクリーニングを終えることができました。









#### 【活動予定】

■日時:11月24日(日)10:00~12:00 野洲川での屋外勉強会 場所:湖南市・野洲川



# (9) 湖(こ)をつなぐ会 【活動報告日の活動会員数(のべ) 7名】

グループ代表アドレス: hashi-ko-tunagu@lbiwahaku.jp

グループ担当職員:林竜馬

#### 【活動報告】

10月20日のびわ博フェスでは、「生きている琵琶湖」を合唱し、「びわこの旅」の紙芝居を中心に、紙芝居にも出てく る"ヨシ"について詳しく説明をしました。まず、実習室から借りてきた本物の"ヨシ"を見せると、おとなも子どもも、 背の高さにみなさん驚きの声をあげられます。そして、"ヨシ"の水辺での働きについて説明をして、メンバーがヨシ笛の 演奏をしました。手作りとは思えない美しい音色に皆さん驚かれます。そのあとは、子どもたちと"ヨシ"で作った、ビー ビー笛で「カエルの歌」を演奏して盛り上がりました。

11月16日は、関西文化の日でしたが、比較的来館者が少なく、子どもたちが集まるかと心配しました。しかし、2回と もにたくさんの子どもたちが集まってくれて、楽しい時間を過ごしました。そして、まもなく A 展示室 B 展示室がリニュー アルのために閉室になるために、今日、しっかり展示を見ていただくように伝えました。子どもたちの記憶にどれくらい今 の展示室の記憶が残るか楽しみです。

#### 【活動予定】

1月26日(日)紙芝居上演 13:00集合

3月8日(日)はしかけ登録講座・紙芝居上演 13:00集合



# (10) ザ! ディスカバはしかけ 【 活動報告日の活動会員数(のべ) 4名 】

グループ代表アドレス: hashi-discov@biwahaku.jp

グループ担当職員:妹尾裕介、大槻達郎

秋が深まり、だんだん寒さが増してきました。紅葉もちらほら見られるようになりましたね。この間、ザ!ディスカバは しかけでは、びわ博フェスで活動しました。今回のワークショップは「木いホルダーづくり」。参加者に、いろいろな形に カットした木材を好きな木片を選んで、孔をあけてもらい、表面を磨き、自分だけのこだわり木いホルダーを作ってもらい ました。とくに、孔あけは大人も子どもも必死になって頑張って、あいた瞬間とても達成感を得ていました。100人を超え るたくさんの人たちに参加していただき、大盛況でした。参加の皆様、ありがとうございました。

#### 【活動報告】

活動内容	実施日	タイトル	内容
びわ博フ	10月20日	木いホルダーづくり	実験工房で、木製のキーフォルダ作りをしまし
エス	13:00-14:50		た。孔をあけ磨いて









~メンバーからのメッセージ~Vol. 55

みなさん一生懸命に木片を磨いてオリジナルの木いホルダーを作ってくれました。本当にたくさんの人の参加ありがとう ございました。

妹尾

#### 【活動予定】

活動内容	実施日	タイトル	内容
はしかけ	12月8日	虫バッジ作り	ツバキの種を組み合わせて虫に見立てたバッ
	13:30-, 14:30-		ジを作ります。(準備は10時集合)

ディスカバリールームで「こんな楽しいことしたい!」などアイデア・提案があれば、お気軽に妹尾・大槻まで声をかけて ください。いつでもお待ちしております!

新しいメンバーも大募集中です。一緒に楽しい発見 (ディスカバ) してみましょう!

また、ザ!ディスカバはしかけでは、定期的にイベントを開催しています。ぜひぜひご参加ください。



### (11) 里山の会

【 活動報告日の活動会員数 35 名 】

グループ代表アドレス: hashi-satoyama @biwahaku.jp (登録会員数:36名) グループ担当職員:山本綾美

#### 【活動報告】

### ■ 10月5日(土)里山体験教室下見 6名



翌週の里山体験教室の準備として、会場の下見を行いました。特に、秋の散策と里山整備の内容について相談しました。コースを歩いてみたところ、今年は例年より実のなりが少ない感じがしましたがそれでも、むかごや栗が沢山なっているのを確認できました。アケビはまだ青いけど、来週の本番には収穫できるかもしれませ

ん。そして、我らがキノコ博士Mさんが、チチアワタケを発見!これは食べられるので、収穫

しました。キノコはすぐに痛むので下処理して、保存します。いつも お世話になっているはしかけの森ですが、今年の夏の間に、ずいぶん と侵入竹が生えてきていました。来週は参加者の皆さんと一緒にこの 竹の整備をしようと相談しました。(山本)







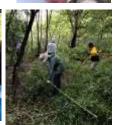
#### ■ 10月14日(月祝)里山体験教室本番 30名



少雨決行しました。朝から問い合わせの電話が入るほどだったので、開催するかどうか本気で悩みましたが、まだそれほど寒い時期でもないし雨の里山もまた良し♡なのです。実際、秋の美しさと味覚に恵まれた楽しい里山体験教室となりました。朝、スタート一番は秋の散策です。キノコは少なかったのですが、極小キノコをみつけたり、秋の味覚「あけび」や「むかご」を収穫しながら1時間

半の散策をしました。午後のクラフトの材料も拾いながら歩きます。子どもたちは栗の実で作ったスプーンに栗の実を乗せて栗運びレースを始めました。いろんなことして遊ぶものだと感心しきり。昼食には、里山の会からキノコ汁の提供をしました。野生キノコの度胸汁と○○堂購入キノコで作った平和汁どちらもおいしい!でも度胸汁のほうがあっという間に売り切れました。午後は少し雨が降ってきたので、子ども





たちはテントの下で、クラフトをして、大人は里山整備をしました。里山整備は、みんなさん熱心に作業してくれて、はしかけの森がとってもすっきり風通しがよくなりました!子どもたちもみんな夢中でやじろべえやどんぐりこまを作ってお遊んでくれました(山本)

#### ■ 10月17日(木) びわ博フェス準備 4名

今年の里山の会の出し物は、ひのきの枝の皮を剥いてもらい丸い台に差し込んで→出来上がり!軽いオーナメントなら数個掛けられます。枝とりに手を上げてくれた4人で栗東金勝道の駅に集合!一ノ瀬山林(やまのこフィールド)へ移動!午前中に子供たちが倒したひのきの間伐材の枝をいただき、袋いっぱいになったところでやまのこスタッフのみなさんにお礼をいって帰りました(^^)柳原。



#### ■ 10月19日(土) びわ博フェス ワークショップ 17名+参加者30名



午前の準備も整い、午後は、さあ!やるぞー。 と気合いを入れて始まりました。小さい子どもちゃんから年配の方々までいろんな年代の方々に参加いただきました!楽しそうな声を聞きながら⇒受付、説明、枝の選び方、穴あけ作業等々メンバーそれぞれフル回転の数時間でした!なかなか達成感がありましたね、皆様お疲れさまでした! (後から聞いたのですが…館内にひのきを持っている人が結構歩いていた

ようで、宣伝効果?バッチリですしたね)。柳原♪





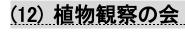


#### 【活動予定】

■ 11月24日(日) 荒神山森づくり・森づかい塾への参加

■ 1月11日(土) 里山体験教室下見

■ 1月19日(日) 里山体験教室本番





グループ代表アドレス: hashi-shoku-kan@biwahaku.jp

グループ担当職員: 芦谷美奈子

センダングサのなかまをはじめ、チヂミザサ、キンミズヒキ、ササクサ、アレチヌスビトハギなど、実や種がくっついて 運ばれるものが、秋の観察時には足元に広がっていて悩みのタネとなっています。

#### 【活動報告】

■ 10月6日(日)「持ち寄ったものの観察、博物館から湖畔の観察、11月~3月の計画」 参加者:8名

9月(長浜へのお出かけ観察「水草の観察」)は、行事などが重なり参加人数が少なかったため、その水草観察の報告 から始め、その後、持ち寄ったものを順番に観察。ハナミズキの実は、ヤマボウシ(1つの実の中に複数個の種子)や サンシュユ (実が少なく、その各1つの実の中に大きな1個の種子) と違って数個の実が固まって付いている。花のつ くりとしては、花が複数かたまって咲くサンシュユの方が数個の実が固まってつくイメージなのだが、全く違う。来年 はそれぞれの花を分解して疑問解決をしたい。

また、アオギリも持参してもらったので不思議な実の形と種子の付き方 を観察。図鑑で調べ、お皿のようなものは雌しべそのものが膨らんででき た形だとわかり、花の形からは全く想像できない実の形状をしていること への疑問がここで少し解決できた。その一片は取れて、種子が付いている とクルクル回って落ちるが、風に乗ったとしてもそこまで遠くへは行けな さそうだ。

その後、博物館から湖畔へ向けての観察。シナノキの実を見たかった が、虫食いだらけでほとんど葉がなく、実も見つからなかった、残念。 カツラやクスノキ、ヤブニッケイの葉の香りを楽しみ、モチツツジの葉 (裏が逆毛?)で洋服にペタペタと模様を貼りながら湖畔へ。目的にしてい たゴキヅル(昨年は沢山あった)が、たった1本しか見つからず、残念!



アオギリの実と種子

■ 11 月 4 日 (月・振休) 「甲賀市『水口子どもの森』へお出かけ観察 『秋の里山を歩こう』」 参加者:10 名 急に寒くなり、朝は12℃。紅葉はまだまだ先のようだが、今年は夏の猛暑の関係なのか強風が吹いたせいなのか、 すでに葉を落としてしまっているものも多くあった。季節的に花は少ないが、里山としての景色や今の季節を感じられ るものを見ようということで、朝9:30から観察スタート。

ヌマスギ、メタセコイア、シラカシ(実あり)、ヒノキの丸太、リンドウ、ミゾソバ、ヤノネグサ、ツリガネニンジン などの花を見て次のルートへ。思ったよりスズメバチは少なく、アカトンボのなかまやマガモがのんびり感をあたえて くれた。ヤマイモのむかご(脇芽)、カラスウリ実を割って種子の観察、カシワの葉や殼斗を触りながら移動。カエデの なかまは、色づくのにまだまだ日がかかりそうだったが、コナラやクヌギのどんぐり、カラスザンショの実を観察しな がら歩くことができた。お目当てのツルリンドウは実のみであったが、キッッコウハグマは小さいながらも白い花がほ ぼ満開状態でみることが出来た。

以前は自宅回りの空き地や林に入ると見ることが出来たコウヤボウキも近年は特別な場へ行かないと見られなくなっ た。そして、近くの公園で咲いていたツリガネニンジンやアキノキリンソウも今は無く、気がついたときにはそれらが もうすでに無くなっていっていることを感じずにはいられない。

#### 【活動予定】

- 月に1回、**第1日曜日の午後**を予定しています。遠出の場合は、これに限らず、変則的になります。 外部で行う観察会は、年に数回、はしかけのみなさんにも呼びかけを行う予定です。このニューズレターを見て、直 接現地へお越しください。基本的には、危険が無く雨でも歩ける所で、大雨や警報が出ない限り「行う」方向でいま
- 12月1日(日)「博物館の周辺を見よう(館内)、持ち寄ったものを見よう」

場所:琵琶湖博物館 実習室1または2、またはラボへ集合 時間:13:30~16:00

■ 1月12日(日)「博物館の周辺を見よう(冬芽など)、持ち寄ったものを見よう」

場所: 琵琶湖博物館 実習室1または2、またはラボへ集合 時間: 13:30~16:00

- 2月 なし
- 3月1日(日)「今年度の反省と次年度の計画」

場所:琵琶湖博物館 実習室1または2、またはラボへ集合 時間:13:30~16:00

この活動に興味のある方は、メール(上記メールアドレス)にてご連絡ください (^o^)/



### (13) たんさいぼうの会

【 活動報告日の活動会員数(のべ) 21名 】

グループ代表アドレス: hashi-keisou@biwahaku.jp

グループ担当職員 影の会長:大塚泰介

#### 【活動報告】

たんさいぼうの会第60回総会を、9月29日(土)9:30~11:30に、草津市まちづくりセンターで行いました。参加者は6名でした。春からの活動報告の他、びわ博フェスティバルの方針、電子図鑑検索ページの作成などについて検討しました。

10月19日(土)~20日(日)のびわ博フェスティバルでは、琵琶湖の小さな生き物を観察する会とともに、マイクロアクアリウムを乗っ取りました。ついて来られるものだけついて来い!という方針の下、プランクトンの写真パネル展、生きた珪藻の観察、(なつかしの)珪藻マスターなどを行いました。珪藻マスターについては「とっても難しい」と注意書きをしていたにもかかわらず、挑戦者が後を絶たず、3ステップ全てをクリアする強者(中学生)も現れました。

これまで用いてきたメーリングリストのサービス終了を受けて、吉野会員が新しいメーリングリストを準備してくれました。2014年にもそれまでのサービスが終了し、移行してからわずか5年半。メーリングリストを変更するごとに、使えるサービスも限定されてきています。

藤前干潟(愛知県)の珪藻の論文が、その分野では有名な海外誌に受理されました。ただしこの論文は、編集者の指示により方法論に絞って書き直したために、肝腎の珪藻植生報告は次の課題となりました。現在、その珪藻植生報告の論文を鋭意執筆中です。瀬田公園(大津市)および藤ヶ鳴湿原(岡山市)の珪藻については、すでに一通りの同定を終え、現在ブラッシュアップ中です。他にもそれぞれの会員が、古琵琶湖層群蒲生層の古環境の研究、5年前に採集した愛知県の鉱質土壌湿地群の珪藻植生研究、10年あまり前に採集した曽根沼・野田沼(彦根市)の珪藻植生研究などを進めています。

あともう1つ、琵琶湖のある珪藻についてドエライことがわかってきたのですが・・・論文になるまでは秘密です。

#### 【活動予定】

たんさいぼうの会第61回総会と新年会を、1月中旬のどこかで行います。しかしこの原稿を書いている時点では、まだ日程調整中です。また、これまでに採集してきた珪藻試料の整理、写真撮影、同定を分担して個別に進めていきます。また、珪藻電子図鑑の検索ページの作成を進めていきます。こうした活動にご関心のある方は、上記代表アドレスまでお気軽にご一報ください。



# (14) 田んぼの生きもの調査グループ 【活動報告日の活動会員数(のべ) 7名】

グループ代表アドレス: hashi-tambo@biwahaku.jp

グループ担当職員: 鈴木降仁

稲刈りも終わり、田んぼにはひこばえが伸びています。イネは強いですね。これから田んぼは冬支度。田んぼのカイエビ類やカブトエビたちは、卵で半年間の冬ごもりに入ります。

#### 【活動報告】

■ 10月13日(日)13:30~16:00 2019年度調査報告会 場所:博物館実習室1 参加者:7名

最初に、山川会長から今年度の調査結果の概要説明があり、その内容について全員で議論を行いました。調査結果に関する主な論点は、つぎの通りです。

- ・石山・瀬田地区では年々宅地化が進み、調査できる田んぼが減少している。
- ・採集できたカブトエビ類の数が減少する一方で、採集された個体は大型化している。発生時期が早まっているかもしれない。

耕作される田んぼの数が減少して、水入れが早くなったのか?

- ・経年変化だけでは、アジアカブトエビとアメリカカブトエビの力関係がよくわからない。 両種の比率は採集時期の影響を受けるのではないか。
  - 採集個体数をもう少し増やさないと、実際の生息数の比率はわからないのではいか。もう少しはっきりさせるためには、実験系を構築して検証する試みが必要だろう。
- ・アジアカブトエビは、用水の下流から上流に向かって分布を広げているように見える。

- ・守山地区ではトゲカイエビとカイエビが共存・繁栄している。 両種は競争関係にはなく、独立に生息している? これらの議論を踏まえて、来年度の活動の方向が見えてきました。
- ・アジアカブトエビとアメリカカブトエビを同所で飼育し、個体数の変化を見る。
- ・両種が混在している田んぼで毎週継続的にサンプルを採集し、個体数の変化を見る。 いずれの場合も同じ田んぼを頻繁に訪れる必要があるため、所有者あるいは耕作者とコンタクトをとることが必須と考 えられます。

また、山川会長から、形態的特徴をもとにトゲカイエビとカイエビを見分ける数理的手法の構築を試みている旨の報告が あり、全員でどの部位を数値化すればよいかを検討しました。



左は、山川会長作成のエビ 類分布図の一部です。一筆 ごとに、採集された種が年 度順に並べられています。 古い地図を使用しているの で、既に宅地化されて今で はデータが取れない場所も 多くあります。

#### 【活動予定】

田んぼのエビたちに倣って、私たちもしばらく冬眠の予定です。

(石井千津)



# (15) タンポポ調査はしかけ 【活動報告日の活動会員数(のべ) -名】

グループ代表アドレス: hashi-tanpopo@biwahaku.jp

グループ担当職員: 芦谷美奈子

#### <「タンポポ調査・西日本2020」実施中>

「タンポポ調査はしかけ」は、「タンポポ調査・西日本2015」というタンポポの参加型広域調査に協力しなが らタンポポについて学ぶことを目的にしているグループです。5年に1度2年にわたって実施される広域調査です が、ついに来る3月から「タンポポ調査・西日本2020」の調査が始まりました!琵琶湖博物館は、前回に引き 続いて滋賀県の実行委員会を引き受けています。

#### <はしかけメンバー募集中!>

次の調査期間はいよいよ本調査の2020年3月~5月です。興味のある方は、上記メールアドレスに連絡をくだ さるか、博物館で学芸員の芦谷に声をおかけください。

#### <「タンポポ調査・西日本2020」の調査票、2015年の調査の結果を掲載したチラシ、報告書を配布します!>

「タンポポ調査・西日本2020」の調査票を、今年の調査終了後も継続して「おとなのディスカバリー」の植 物コーナーに置いています。ご希望の方はお立ち寄りください。また前回2015年の結果チラシと報告書もわずか に残部がございます。報告書は本来 1000 円いただくものですが、ご希望の方は連絡をください。残部がなくなっ てしまった場合はご容赦ください。また、グループに登録していない方でも、上記アドレスに連絡をくださればお 渡しします。

#### 【活動報告】

鋭意取りまとめ作業中です。

#### 【活動予定】

現時点では予定はありません。

グループ代表アドレス: hashi-chikoaso@biwahaku.jp

グループ担当職員:中村久美子

#### 【活動報告】

#### ■ 10月16日(水) 10:00~14:00 参加者:子ども7名(2才~13才)、保護者5名、スタッフ3名

春に植えたサツマイモが大きくなり、そろそろ掘り時かなと試し掘りをしました。紅東と鳴門金時の畝を掘り起こすと、 そこには大小の赤いサツマイモが!小さな子どもも少し大きな子どもも一緒になって、芋を探してスコップで土を除けて いきます。サツマイモ以外に、ミミズやケラが出てきて、それもまた発見です。

サツマイモは美味しくなるように、寒空で保管です。代わりにサツマイモのツルをお母さんたちとバンダナおじさん、ス タッフでひたすら皮むきをしてキンピラにしました。採りたてのツルの出来立てのキンピラは絶品!子どもたちもパクパ ク食べていました。

生活実験工房の前には、ザクロがなっています。夏にはたくさんの花が咲いていましたが、全ての花に実がなるわけでは なく、そこからほんのいくつかだけが大きな実になり、中にキラキラの果肉が見えています。なが一い棒でザクロの実を落 として、中のあま一い実を食べると、秋の美味しさが広がります。甘さを味わったら、口からプップップッとタネを飛ばし て遊びます。上手に飛ばせたら大成功です。

#### ■ 10月19日(土) 10:00~12:00 びわ博フェス ちこあそ拡大版 子ども2名、大人2名、スタッフ2名

びわ博フェスでちこあそを実施しました。当日はあいにくの雨模様で、参加者はたまたま通りがかってくださったご家族 1組でしたが、その分スタッフの案内で森をじっくり楽しんでもらいました。カマドで火を点けて、火吹き竹でフーフーし たり、ザクロを味わって、森で雨粒と遊んで、ヨウシュヤマゴボウで色水遊びをして、正座してお抹茶を恐る恐るいただい てと、工房の面白さを楽しんでもらいました。

#### ■ 11月20日 (水) 10:00~14:00 参加者 : 子ども4名(2才~4才)、保護者4名、スタッフ4名、大学生1名

まずは残念なお知らせから。10 月に収穫して、軒先で美味しくなるのを待っていたサツマイモが無くなってしまいまし た!

とてもとても残念でしたが、まだ収穫していなかったサツマイモを掘り起こし、次は美味しく食べようと保存しました。 期待していたサツマイモがなかったので、改めてサツマイモを持参しましたので、炭火コンロでじっくりと焼いて、焼き芋 にしました。青空の元、ホクホクの焼き芋の美味しいこと!これが自分たちのイモやったら、もっと美味しかっただろうな あとおしゃべりしながらでした。今回は初めて参加してくださった親子が2組あり、普段お家での子育てでイライラしてし まうことも、ちこあその活動では森や田んぼでは、子どもを怒る必要もなく、子どもも大人も解放感でいっぱいでしたとの 感想も頂きました。









- ①芋のツルの皮を剥ぐのは母が無心になってホッとできる時間だそうです ②無くなる前のイモ
- ③カマドで火おこし体験 ④外で食べる焼き芋は美味しいね。

WEBで、活動の様子や次回のチラシを掲載しています。 http://blog.goo.ne.jp/eco-macha をご覧ください。

#### 【活動予定】

活動内容	実 施日	タイトル	内容			
12月	12月18日(水)	ちこあそ 12 月	※毎月おおよそ第3水曜日に行っています。			
	10:00-14:00		ルーペでの自然観察、森の探検、工房の食体験など			
1月	1月15日(水)	ちこあそ1月	やさしい自然遊びを子どもや保護者の方とゆっくり、ボチボチ過ごし			
	10:00-14:00		ます。			

新しいメンバーも飛び入りも大募集中です。一緒に子ども達と遊びましょう!



# (17) 琵琶湖の小さな生き物を観察する会 【活動報告日の活動会員数(のべ) 15名】

グループ代表アドレス: hashi-bck@biwahaku.jp

グループ担当職員:大塚泰介

#### 【活動報告】

#### ■ 9月23日(月) 参加者:8名

博物館の周辺のプランクトンを観察しました。今回はいつも採集している烏丸半島の船着き場が立ち入れなかったた めホワイトビーチの東側で採集を行いました。船着き場とは異なり水草が多く繁茂していたため普段の活動とは異なる プランクトンを見ることが出来ました。筆者が最近観察している田んぼと共通のワムシがいくつか出てきたのも面白い 点でした。

今回は学芸員の方を含め3人の大ベテランの方が参加していたため高校生でミクラステリアスの研究をしているメン バーの方はそれぞれからアドバイスを受けていました。将来が楽しみです。

#### ■ 10月19日(土)、20日(日) 参加者:7名

びわ博フェスでワークショップを行いました。今回は去年と同じようにマイクロアクアリウムで生き物の紹介や珪藻 マスターを行ったほかマイクロシアターで本日のプランクトンの解説を行ったりプランクトンの貴重なシーンを集めた 動画の上映を行いました。メンバーの一人が作成した動画はプランクトンの採餌や産仔から渦鞭毛藻の鞭毛の動きまで 様々なシーンが集められマニアックで面白いものに仕上がっていました。去年とは参加メンバーが異なっていたので概 要は同じワークショップでも違った雰囲気になっていたと思います。



博物館前で見つかった珍しいワムシ



顕微鏡で観察中



研究のアドバイスを受けている



マイクロバーでの水生生物の解説



マイクロシアターで本日のプランクトン を来館者と一緒に観察



珪藻マスターにチャレンジ

#### 【活動予定】

琵琶湖の小さな生き物を観察する会では月に1回、観察会を行っています。 見学・参加希望の方はグループ代表アドレ スまでお問い合わせください。



グループ代表アドレス: hashi-biwatan@biwahaku.jp

グループ担当職員:由良嘉基・奥野知之

#### 【活動報告】

#### ■ 10月20日(日) びわ博フェス 参加者: 20名

B展示室で「ワークシートにチャレンジしよう」を実施しました。瀬田の唐橋の遺構近くに大きな絵図があります。今にも話し出しそうな二人の武士が、今回のワークシートの主役です。

まず、ワークシートを受け取ったら、①二人の武士をB展示室から捜しだし、②どこにいるかよく見て、③落とし物が何か答え、④二人の武士に声をかけるとしたら何と言ってあげるかを考え、⑤最後に絵図の続きを聞く。これでミッションクリアです。展示室にはヒント係のびわたんメンバーがいて大活躍でした。

参加いただいた方は、幅広い年齢層でご家族やお友だちと一



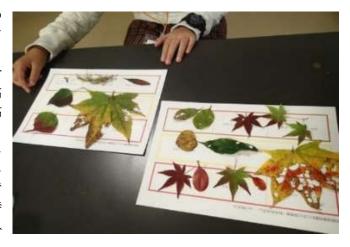
緒に展示を通して賑やかにチャレンジして頂きました。私が印象に残ったのは、④のミッションです。大切な物を落としてしまった武士に、慰めの言葉をかけてあげる子、一緒にさがそうと言ってあげる子、関西人魂?激しくツッコミをする子…様々で楽しかったです♪

B展示室もいよいよりニューアル…長くこの展示室を楽しんできた私には寂しさが募りますが、リニューアル後も展示を通して、たくさんの方々と楽しい思い出が作れればいいなと思っています。

ありがとう☆b展示室!!いっし~☆

#### ■ 11月9日(土)「秋の色探しをしよう!」 参加者: 25名

今回は「秋の色さがし」というテーマです。内容は博物館の周りで秋の葉っぱをさがし、紅葉した葉を実習室で紙に貼っていくという事をしました。外では、博士の話に熱心に耳を傾け、いろんな質問をしていました。台紙に葉を貼る方法は、参加者それぞれのアイディアにお任せ。葉の色でグループ分けして貼る人、大きさで分ける人、まるで絵画のように紅葉した葉を貼っていく人。個性豊かな作品ができあがりました。知りたがり屋の人が多く、博士が質問攻めに合っていたのが印象的でした。今回、自分は司会という立場になりました。自分の話をしっかり聞いてくれるし、博士の話もしっかり聞いてくれたのでよかったです。プログラムの最後に、自分の作品を紹介する時間がありました。発表しやすい雰囲気づくりを心掛けたいと思います。葉の取りすぎには注意したらよかったと思いました。



(わくたんメンバー:ゆっち)

#### 【活動予定】

■ 12月14日(土)「綿にふれてみよう!」

グループ担当職員:中村久美子・松岡由子

判形百日の石劉云貝数(のべ) 9日 /

# 【活動報告】

#### ■ 10月5日(土)参加者:4名

午前中は担当学芸員の松岡さんとカイツブリのヒナの仮剥製と、カイツブリの翼の標本の制作を行いました。午後からは、フナの組み立て、カイツブリの徐肉を行いました。

普段は骨の標本を作ることが多いほねほねくらぶの活動ですが、仮剥製や部分標本などを制作する事もあります。 (仮剥製とは、よく目にされているポーズをとった剥製標本とは違い、手足を折りたたんだ姿勢で制作される、主に研究のための剥製標本です。)

普段の骨の制作とはまた違った手順での制作になるので、気を付ける箇所も違い、注意しながらの慎重な作業となりました。

#### ■ 10月20日(日)参加者:3名

午前中は琵琶湖博物館において開催された、びわ博フェス 2019 において、おとなのディスカバリールームのオープンラボを使用して、キツネの骨の洗浄作業の公開実演と、来館者の方達との交流活動を行いました。

午後からは、キツネの骨のクリーニング、標本の整理作業を行いました。

オープンラボを使用しての公開作業は、去年のびわ博フェスから続いて今回で2回目、公開する作業工程は今回も骨の洗浄過程を見ていただきました。

標本の制作過程はその性格上、どの段階の工程ならば公開の場で行っても抵抗なく見ていただけるかを考えてしまいます。そうするとどうしても見ていただく工程が限られてしまいます。制作過程はそれぞれの段階で興味深く見てもらえるものだと思うので、他の工程も見てもらえるような工夫を考えていければ、もっと興味深くできるのではないかと思います。

#### ■ 11月2日(土)参加者:2名

キツネの骨のクリーニングを行いました。

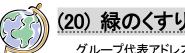


▲▼解剖前に行ったキツネとその骨のスケッチです。画: 西村 有巧



#### 【活動予定】

12月、1月の詳しい活動日は現在未定ですが、 月に2回程度、土曜日・日曜日に活動を予定しております。



グループ代表アドレス: hashi-midori-k@biwahaku.jp

グループ担当職員:大槻 達郎

#### 【活動報告】

■ 10月19日(土) 15:00~ びわ博フェスのワークショップ「アロマハンドトリートメント」

場所:琵琶湖博物館 会議室 参加者:10名

10月19日、20日の2日間にわたって開催された、「びわ博フェス2019」に参加しました。

緑のくすり箱は、植物の香りのオイルを使った、アロマハンドトリートメントのワークショップを開催しました。

当日は、トリートメントを行うセラピストのメンバーと、受付やお客様の誘導をするメンバーに分かれて活動しました。まず受付では、最初にハンドトリートメントの承諾書を読んでもらって署名してもらい、その後、ラベンダー・オレンジ・ゼラニウムの中から、好きな香りを選んでもらいました。ワークショップに来て下さったお客様には、女性が多かったですが、中にはお子さんやご夫婦で体験された方もいらっしゃいました。和気あいあいとした、なごやかな雰囲気でワークショップが開催できたと思います。

反省点として、4名のセラピストが片手5分ずつ、合計10分でトリートメントを実施し、5分の休憩をはさむ、といった段取りにしていましたが、準備等を含め、思ったより時間がかかってしまいました。トリートメントを行ったセラピストのメンバーの感想としては、お客さんと自然に会話しながらトリートメントをするのに慣れないといった意見や、隣のセラピストと時間を合わせながら、進めていかないといけないのが、なかなか難しいという意見もありました。

会場には、メンバーが持ってきてくれたお花を飾り、ドクダミ茶を飲んでいただくスペースも設けることが出来ました。よい癒しの空間を作れたのが良かったと思います。





#### 【活動予定】

■ 11月26日(火) 10:00~15:00 午前:廃油石鹸作り 午後:MPソープ作り 活動場所:実習室2



グループ代表アドレス: hashi-mushikake@biwahaku.jp

グループ担当職員:八尋克郎

#### 【活動報告】

- 10月6日(日) 13:00~17:00 びわ博フェスの準備 場所:生活実験工房 参加者:6名 10月20日のびわ博フェスに向けて、ポスター作りや資料の準備、打ち合せをしました。
- 10月20日(日) 11:00~17:00 びわ博フェス 場所: 琵琶湖博物館 参加者:7名

午後1時より、おとなのディスカバリーにおいて、「虫架けの昆虫観察 part2」と題して来館者の方々に実体顕微鏡で拡大した虫の姿を見ていただきました。

また、アトリウムにてポスターの展示も行いました。



「虫架けの昆虫観察」の様子



展示したポスター

#### 【活動予定】

今後、1か月に1回程度の野外調査、2か月に1回程度の室内勉強会を予定しております。 野外調査は、滋賀県内の分布調査を予定、夏季には夜間の灯火採集も予定しています。 ※都合により、新規グループ会員の募集は当面見合わせております。(文責:梶田)



(22) 森人(もりひと) 【活動報告日の活動会員数(のべ) 12名 】

グループ代表アドレス: hashi-morihito@biwahaku.jp

グループ担当職員:林竜馬

#### 【活動報告】

■ 9月28日(土) 10:00~15:00 京都府立植物園見学会 集合場所:京都府立植物園(京都市左京区下鴨半木町) 内容: 雨天の予報で中止。

■ 10月12日(土) 13:30~15:00 屋外の森の観察とびわ博フェス 2019の準備 集合場所:研究交流室

内容:台風接近のため中止。

■ 10月20日(日) 10:30~15:00 「びわ博フェス 2019」に参加 参加者:(会員)6名(博物館職員)林、草加 内容:ポスター展示と樹冠トレイルと屋外の森のガイドツアーを実施した。参加者を5~10名の3グループに分け森人メン バーがそれぞれに2名付いた。約1時間で樹冠トレイルと太古の森を散策しながら動植物の説明を行った。今回は木の実 (アラカシ、シラカシ、イチイガシ、ツバキ、フウなど) やくっつきむしとなる草の実 (イノコヅチ、アレチヌスビトハギ、 キンミズヒキ、チジミザサなど) やハラビロカマキリなどの他に先週の台風で折れたメタセコイアの年輪、実、雌花と雄花 の蕾やスイショウの実も手に取って見ることができた。樹冠トレイルからは好天に恵まれ湖上のカモ類やエリ網、湖西の 山々、沖島、伊吹山などの眺望も楽しんでもらえた。ただ子供と大人では興味のあることが違うので今後は大人だけのグル ープと子供連れのグループに分けてそれぞれの興味のある内容にすることを検討する。





■ 11月9日 (土) 13:30~15:00 屋外の森の観察と保全計画の立案 場所:生活実験工房

参加者:(会員)6名

内容:屋外の森の観察は参加者全員で全エリアを巡回して行った。5つのエリア(樹冠トレイルコースの地表部・太古の森・ 遷移実験区・田んぼから太古の森への道・落葉広葉樹の森)毎に観察結果(雑草・竹笹・葛、蔦・台風の倒木・樹名板・害 虫・枯れ・他)を記録した。樹冠トレイルコースの地表部では、2018年に植樹した樹木の4月度調査結果を元に、その後の 確認を行った。樹木周辺の雑草、蔓など周辺の環境が大きく変化していることが分かった。今回の観察は、10 月にガイド ツアーを行ったすぐ後であり、来館者の皆様の感想や気づき点も加えた観察ができた。生活実験工房で観察結果の確認会を 実施。12 月以降の保全計画は、除草、葛・蔦の除去、追加設置したい樹名板の選定など、作業量の大きなものが複数ある が、来館者にもっと親しんでいただける屋外の森づくりを目指して優先度の高いものから順次進めていきたい。







#### 【活動予定】

◎11 月 23 日(土) 10:00~15:00 頃 京都府立植物園見学会 集合場所:京都府立植物園(京都市左京区下鴨半木町) 自然林である半木(なからぎ)の森や植物生態園および日本の森などを見学するほか植物園職員が見ご ろの植物を解説する「土曜ミニミニガイド(午後1時から1時45分)」に参加する。

◎12月14日(日)13:30~16:00 屋外の森の保全活動(詳細検討中)

- ★森が好きな人、植物や昆虫など生き物が好きな人、専門知識は不要です。はしかけ "森人" に参加しませんか
  - ★参加を希望される方は 森人(もりひと) hashi-morihito@biwahaku.jp に連絡ください。

【活動報告日の活動会員数(のべ)

グループ担当職員:中井克樹

#### 【活動報告】

- 1. 米原高校地学部の1年生3人および坂本先生が、10月9日に珪藻の同定および研究のまとめ方の相談をしに琵琶湖博 物館に来ました。
- 2. 東京在住の中野会員が、日本陸水学会 (9月27日~30日、金沢大学) でポスター発表を行い、優秀賞を獲得しました。
- 3. 米原高校地学部が、第63回滋賀県学生科学賞県展で最優秀賞を獲得し、全国大会に出品されることになりました。研 究タイトルは「小泉湖と周辺の環境をたどる~最終氷期から縄文時代までの小泉湖と周辺環境をたどる~」。琵琶湖博物館 で花粉や珪藻を学んだ成果が表れています。
- 4. 他にも会員による研究発表が目白押しです。

#### 【活動予定】

未定



(24) サロン de 湖流 【活動報告日の活動会員数(のべ) 9名 】

グループ代表アドレス: hashi-salondekoryu@biwahaku.jp

グループ代表アドレス: hashi-ryozanpaku@biwahaku.jp

グループ担当職員:戸田

#### 【活動報告】

■ 10月5日(土) 13:30~ びわ博フェス参加の準備 場所:琵琶湖博物館 実習室2

参加者:4名(はしかけ3名 学芸員1名)

びわ博フェスに出展するポスターの内容について議論しました。

また、内容について議論する中で、これまでの成果が形として見えてきたので、それを踏まえて今後の活動方針(特に特 別採捕許可に必要となる研究計画の具体化方針)について議論しました。

- 10月19日(土)、20日(日) びわ博フェス参加
- 11月16日(土) 13:30~ 今後の活動方針について協議 場所:琵琶湖博物館 実習室1

参加者:5名(はしかけ4名 学芸員1名)

びわ博フェスのポスターでこれまでの成果をどのようにストーリーとしてまとめるか、今後どのようなストーリーに基 づいて考察を進めて行くか、そのためにはどのような観測が必要となるかという方向性が見えてきたので、これをどのよう な場で成果発表していくか、今後の観測に向けてどのような準備が必要かということを議論しました。

#### 【活動予定】

■ 12月14(土) 13:30~ 場所: 琵琶湖博物館 実習室1

今後、会合の日程を定例化して進めて行く方針が確認され、当面は毎月第二土曜の午後ということでやってみることにな りました。



(25) 水と暮らし研究会 【活動報告日の活動会員数(のべ) 7名 】

グループ代表アドレス: hashi-mizu-kurashi@biwahaku.ip

グループ担当職員:楊平

#### 【活動報告】

■ 8月29日(木) 8:30~16:30 天気: 曇天 参加者:5名 活動場所:高島市新旭地区

調査目的:新旭の高島晒協業組合を訪問し晒産業(繊維)がこの地に起業された要因である水との関わりの調査と、

新旭地区での湧水未訪問先の調査

調査場所:産業起業調査 高島晒協業組合事務所

湧水調査 唐崎・西宮神社の手水、大泉寺の手水、岡の玉水、水尾神社の陰陽の水

• 調查場所詳細

●産業起業調査として

#### ①高島晒協業組合

(歴史的背景)江戸時代末期(1780 年頃)には農家の冬季副業として生産が始まっていた。一時は分部藩が農業の妨げに なると生産地以外の農家の機織り禁止令が出されるほど盛況であり、大溝港から大津港を経て京都への販路も確立されて いた。1890 年頃には安曇川水系の豊富な水を使いながら晒染色加工も始まり女工さんも全国から集まり盛況時には500 軒近くの織屋があった。現在では高島ちぢみとしてのブランドと吸湿性と爽やかな着心地の特長を生かした製品つくりに 邁進されている。(水との関わり)機織りには適度な湿度と良質な大量の水が必須であり、水道水は殺菌用塩素が混入して いて脱色、色褪せで使用が限定される。安曇川の扇状地であり 10m も掘れば砂利層からの豊富な軟水が大量に確保できるの も強みである。

#### ●湧水調査として

#### ①唐崎・西宮神社の手水

滋賀神社庁資料によると、御祭神は事代主命。勧進年代は不詳とある。鳥居が二つ建っている。社務所は地域の老人憩い の家が併設されている。田園地帯の道路脇の神社の手水であるが安曇川の伏流水をポンプUPして使用している模様。

#### ②結縁山大泉寺の手水

本尊の如意輪観音菩薩は慈恵大師の作と伝えられている。その大師誕生の際に産湯を求めたところ霊水が湧出したと言 う謂れがある。今も日照りが続いても涸れることはないと案内に記されている。現在は手水としてのみ使用されている。



西宮神社(唐崎神社二ツの鳥居)



結緣山大泉寺境内手水

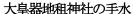
#### ③岡の玉水

新岡野スポーツセンダーの山裾に湧き出る水を防火水槽に貯水されているのが「岡の玉水」。湧出量は多。 水質検査書も掲示あり。柄杓の用意もあり。汲み帰る人もいる。

#### ④水尾神社の陰陽石の水

水尾神社は周辺に古墳群もあり、古代文化の一つの中心地である。水尾庭園と称する庭園内の陰陽石から水量は多くない が流れ出ている湧水。







君ヶ畑集落の防火水槽の水

■ 9月24日(火) 8:10~16:30 天気:曇り一時小雨 参加者:5名 活動場所:東近江市永源寺地区

調査目的:鈴鹿山系の麓の奥永源寺地区から愛知川流域の「水とくらし」にかかわる現状調査の第一弾および周辺湧水

調査

調査場所: 奥永源寺地区の最深部の君ヶ畑地区

・調査場所詳細

●情報収集先として:①東近江市役所教育委員会歴史文化振興課

②地域村おこし協力隊(君ヶ畑地域への移住者)

#### ●湧水調査として

#### ①永源寺門前和泥水

永源寺門前の山道の入り口の崖下にパイプから流出している。石像の地蔵尊である飲用不可の表示あり。泥まみれになって人に尽くす道元禅師のお言葉からの命名。

#### ②永源寺門前洗耳水

永源寺山門前に竹筒の先から近くの谷水を受け、手水として使用されている。人々は俗界からの耳垢を洗い流してから寺にお参りするようにとの謂れあり。



和泥水



洗耳水

#### ③君ヶ畑大皇器地租 (おおきみきじそ) 神社の手水

奈良時代に木地師の祖としての惟喬親王を祀る。本殿の真後ろにある杉のご神木は真っ直ぐに天に向かってそびえたっている。手水は周辺の沢水を集めた水源よりのポンプUPしたもの。

#### ④君ヶ畑の防火水槽の水

君ヶ畑集落は防火用水の確保のため集落に6か所ほどの防火水槽を保有している。水源は周辺の沢水の集積であるが、単なる防火用水のためだけでなく生活用水としても利用されている。一種の「かばた的使用法」である。

#### ⑤箕川トンネル傍ら湧水1、2

箕川トンネル新設時にトンネル脇より湧水が流出した。備え付けの塩ビパイプより多量の水量である。地元では評判のおいしい水とのこと。







君ヶ畑集落の防火水槽の水

(本稿の執筆者 小篠)



# (26) 海浜植物守りたい 【活動報告日の活動会員数(のべ) 11

グループ代表アドレス: hashi-kaihin@biwahaku.jp

グループ担当職員:大槻 達郎

#### 【活動報告】

■ 9月27日(金) 9:00~11:40 天気 曇 気温30℃ 参加者:・ネイチャーズ新海浜 宇野さん ・阿部、清田、小西、津田 計5名 蒸し暑い作業日となった。

- ・保護区の中と周り、今回は主に枯れた松 (3本) の伐採と、セイタカアワダチソ ウ、チガヤ、メヒシバの駆除。
- \*海浜植物の状況
- ・ハマエンドウ

今年新芽を出した葉が大きくなり蔓を伸ばしている。新芽もあちこちにみられ る。

- ・ハマゴウ 花は少なくなり、種をつけているだけの枝が多くなった。
- ハマヒルガオ 葉は広がっているが花は見当たらない。枯れた葉が少し増えた。
- \*彼岸花が3か所咲いていた。

(奥の方は宇野さんが移植されたようだ。)















■ 10月1日(月) 9:00~11:40 天気 秋晴 気温30℃

参加者:・ネイチャーズ新海浜 宇野さん、琵琶湖博物館 大槻先生 ・阿部、清田、小西、津田 計6名

- ・秋晴れのいい天気だが蒸し暑い作業日となった。
- ・保護区の中のチガヤ、メヒシバ、センダンの幼木の等の駆除。 浜の枯れた松の伐採(2本) 浜のメドハギ、ムシトリナデシコ、ハマゴウの中のカワラヨモギ、 アメリカセンダングサ、オオフタバムグラ、ツユヨシ等の駆除。 ナガエツルノゲトウの除去。

#### \*海浜植物の状況

- ・ハマエンドウ
  - 今年新芽を出した葉が大きくなり蔓を伸ばしている。新芽もあちこちにみられる。 雨が降らないせいか少し元気がないようだ。
- ・ハマゴウ
  - 花は少し残すだけになり、種をつけているだけの枝が多くなった。
- ・ハマヒルガオ
- 葉は広がっているが花は見当たらない。枯れた葉が少し増えた。





ナガエツルノゲイトウ駆除



アメリカセンダングサの駆除

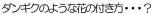






アレチウリ(特定外来生物)の実が付いている







津田家のダンギク

# 3. 生活実験工房からのお知らせ

生活実験工房では10月に晩稲品種滋賀羽二重もちの収穫を無事終えることができました。12月は しめ縄づくり、2月は わら細工です。皆様のご参加をお待ちしております。

担当職員:下松 孝秀

#### 【活動予定】

開催時間 10:00~12:00 (受付 9:30~) 場所 : 生活実験工房

12月22日(日) しめ縄づくり 2月9日(日) わら細工

### 4. その他の事項

#### (1) メールアドレスとホームページアドレスの変更について

びわ博の情報システム変更にともなって、メールアドレスとホームページのURLが変更になりました。新しいメールアドレスは「\*\*\*@biwahaku.jp」、ホームページは「https://www.biwahaku.jp/」です。なにか不備がありましたら、事務局までお問い合わせください。

### (2) はしかけグループの活動に初めて参加する場合

ニューズレター発行後、活動日・活動場所が変更になる場合があります。グループの活動に初めて参加する時は、事前に各はしかけグループの担当者に確認をお願いします。メールの場合は、グループ代表アドレス(各グループの報告欄に掲載)にご連絡ください。

#### (3) 名札(会員証)の写真について

名札(会員証)の写真を更新されたい方は、はしかけ制度担当者 hashi-adm@biwahaku.jp まで送って下さい。ただし、必ず本人確認ができるものに限ります。

#### (4) はしかけ会員証の携帯のお願い

はしかけ活動で来館する場合は、会員証を必ず持参してください。会員証を携帯せずに活動することは、原則的にできません。

### (5) はしかけ活動中に事故が起こったら

はしかけ会員は、ボランティア保険に加入する必要があります。加入時に、ボランティア保険加入カードが各自に配布されますので、活動中に事故などが発生した場合には、加入者カードに書いてある連絡先(社会福祉法人 滋賀県社会福祉協議会 TEL: 077-567-3920 FAX: 077-567-3923) へ、速やかに連絡してください(各人で連絡)。

なお、手続きには、グループ担当者(学芸員)の活動証明が必要ですから連絡してください。

詳しくは、最新年度の「ボランティア保険」パンフレットをご覧ください。「ボランティア保険」のパンフレットは、はしかけ事務局(博物館事務学芸室)にも置いています。